

2011. 9. 26～10. 7

日本人気質

日本人はよく働き、よく学ぶ。よく言われる勤勉である。

弱い人を見ると、ほっとけないという面がある。自分のことをさて置き他人のことに一途になって世話をする。そういう気立ての良さもどうにも捨てがたい一面である。そう人のことを世話をすること自体に安心感を覚え、ひとが落ち着いたときに安ど感に浸る。

日本国は島国という事から、どうも視点が外へ、外へと向かっているような感覚を覚える。日本に住んでいるのだから、日本の問題を解決していこうとしてほしい。それなのに日本人はなぜか海外へと意識が飛んでいく。情報社会といわれる中、情報そのものがどんどん複雑化していき、大きなスパンの中でうごめいている。このような社会の中で日本人がどんどんグローバル化していき、海外で活躍している。私はそういう日本人を誇りに思う。

世界の中の日本人は優秀であり、日本人の手がけたものは他に例を見ないほど優れているとあってよい。しかし、今の日本はどうなのか。本当にこれで良いのか。私は世界を見てきた目で日本を見てほしいという気持ちでいっぱいになる。今の日本の諸問題。原子力の問題、放射能汚染の問題、領土の問題、借金の問題、教育の問題、食量の問題、健康面の問題などなど。世界から改めて日本を見つめなおして、日本が抱えている諸問題の解決の糸口を見出すことこそ本当に必要なことであろう。島国で生きる人は島のことだけを考えるだけであればそれでも良いといえるか。それでは井の中の蛙になってしまう。

人間は世界の人々とともに生きている。生活は世界の人々が暮らしているこの地球で営まれている。どうか世界の人たちが手を貸してくれるように、世界の中の日本人が日本国の為に手を貸す番ではないのであろうか。

このままでいいのか日本！！